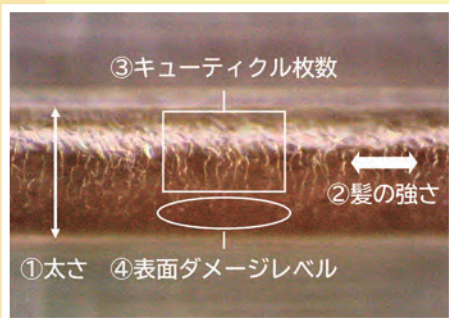




小豆島の移住者への心理的支援について 調査及び実証研究を実施



令和7年、医学部臨床心理学科では小豆島移住者への心理的支援について調査及び遠隔による支援の実証研究を実施。移住理由や生活状況、幸福感などをアンケート調査などで把握し、「窓」という遠隔ツールを用いたカウンセリングで検証しています。香川大学医学部と小豆島を「窓」で結び、移住体験を振り返る5回の対話を実施。令和8年4月には医学系研究科臨床心理学専攻に博士後期課程が設置されます。



高尾英邦教授が開発した「ナノ触覚センサ」 の研究成果が社会実装へ



令和7年9月、香川大の高尾英邦教授とパナソニック株式会社が共同開発した「毛髪キューティクル診断システム」が社会実装されました。独自のナノ触覚センサを搭載し、毛髪の前処理不要で50mmの広範囲を約5分で評価可能。専門家の評価を学習した独自のディープリニングモデルの搭載により、繊細な触覚に基づく毛髪ダメージレベルを定量化。「ナノケア誕生20周年イベント」で公開され、来場者が体験しました。



「みんなの海ラボ in 庵治&庵治わいマルシェ」 を開催



令和7年9月20日、高松市庵治町「芸術未来研究場せとうち」で香川大学と庵治わいマルシェ実行委員会共催のイベントが開催され、環境保全や地域活性化をテーマに展示や体験企画が行われ、地元食材を扱う店舗が出店しました。当日は、鎌野海岸でのビーチクリーンや末永教授による人工漁礁を活用した藻場造成の取組紹介も行われ、持続可能な社会を地域と共につくっていく姿勢が示されました。



PROS(さめき再犯防止プロジェクト)主催の 再犯防止シンポジウムを開催



令和7年7月21日、「孤立させない社会へー再出発を支える地域づくりー」をテーマにPROS主催の再犯防止シンポジウムが開催。学生約200名と学外から100名を超える人が参加。活動紹介や平野副学長の講義後、認定NPO法人「抱樸(ほうぼく)」の理事長である奥田氏が再犯防止と伴奏型支援について講演。続いて学生らとパネル討論を行い、刑務所出所者の再出発を支える地域づくりの重要性を共有しました。



「新型環境調和型藻場造成構造物」 を沈設



令和7年7月14日、香川県高松市庵治町沖に「新型環境調和型藻場造成構造物」を沈設しました。JST共創の場形成支援プロジェクトの一環で、安定した海中林形成(藻場造成)や藻場の新たな価値創造の取組として設計・施工したものです。令和6年に設置した環境調和型構造物に改良を加えています。将来の水温上昇に備え、より水温の低い深場へ設置しました。



ミクロネシア連邦のウェズリー・W・シミナ 大統領閣下が本学を訪問



令和7年8月1日、瀬戸内国際芸術祭視察で来日中のミクロネシア連邦ウェズリー・W・シミナ大統領が本学を訪問しました。上田学長から本学のJICA連携による看護人材育成や認知症ケアなどの協力が紹介され、戦後80年をテーマにした展示を視察しました。翌日のシンポジウムでは、沖縄の古宇利島沖にある沈没船米軍艦「エモンズ」を最新の技術で立体的に再現した研究成果の発表やトラック島沈没艦船探査の講演が行われました。国際的視点を交え、平和と文化遺産継承への理解を深める貴重な機会となりました。



「香川県災害中間支援組織」 を設立



令和7年7月10日、香川県、香川県社会福祉協議会、香川大学、日本赤十字社香川県支部の4者は、災害時に被災者支援を円滑に進めるため、「香川県災害中間支援組織」を設立し県庁で協定締結式を行いました。同組織では平時時、行政・NPOとの連携強化や人材育成、情報発信を進め、災害時には情報共有やボランティア調整を担います。南海トラフ地震の発生確率が高まる中、被災地での支援の重複や偏りを防ぎ、ニーズに応じた効果的な支援を実現することを目的としています。



SETOKUが「日本セキュリティ 大賞 2025」優秀賞を受賞!



令和7年11月13日、本学の学生によるサイバー防犯ボランティア「SETOKU」が、日本セキュリティ大賞2025の人材育成部門で優秀賞を受賞しました。国立大学として初の快挙で、産学官連携を通じ地域の小学校17校で啓発活動を行い、子どもたちの意識向上に貢献した点が高く評価されました。学生主体の取組が選出されるのは極めて珍しく、地域と大学を結ぶ新たなモデルとなりました。代表の創造工学部2年、佐藤璃音さんは「支援者や隊員のおかげ」と感謝を述べました。